

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

—考え議論する道德の実現に向けて—

『はしの上のおおかみ』 B-（6）親切、思いやり



導入

個別

○道德的価値に関わることについて問題意識をもつ

発問

工夫



○「友達のために行動したことはありますか？」  
「どのような気持ちになりましたか？」

他にも…

「○○についてどう思いますか」（アンケート/写真や絵/映像をみて）  
「○○についてイメージすることは何か」（親切・思いやり）等

・生活体験の想起  
・アンケート  
・写真や絵  
・映像  
・クイズ 等



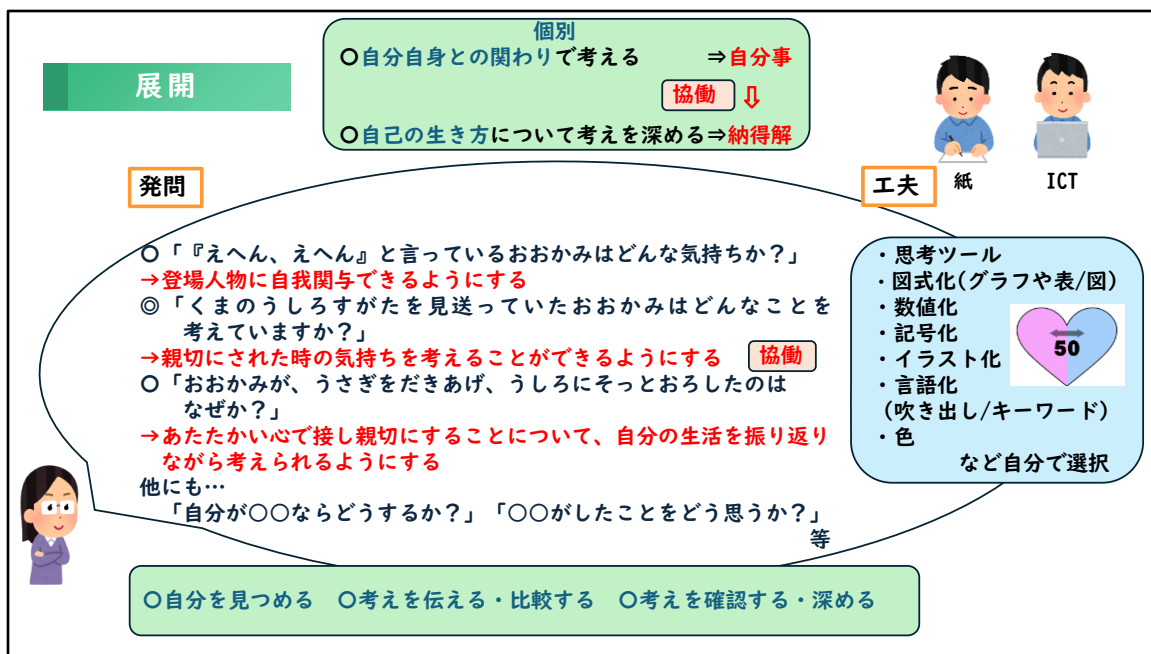
○ねらいに関わる今の自分をみつめる      ○ねらいに関わる今までの自分をみつめる  
○級友の今と今までの心や姿に関心をもつ      ○教材内容に関心をもつ  
○道德的問題を発見する

学習のテーマ⇐子供一人一人の思いや考えを基に設定

『友達や自分があたたかい気持ちになるためには』・・・等

導入では、道德的価値に関わることについて、問題意識をもたせることが重要となる。これまでの経験を踏まえて形成された自身の考えとの相違を生み出し、児童の主体的な取組に繋げる。

学習テーマについては、一人一人の問題意識が含まれるものとするこてで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。



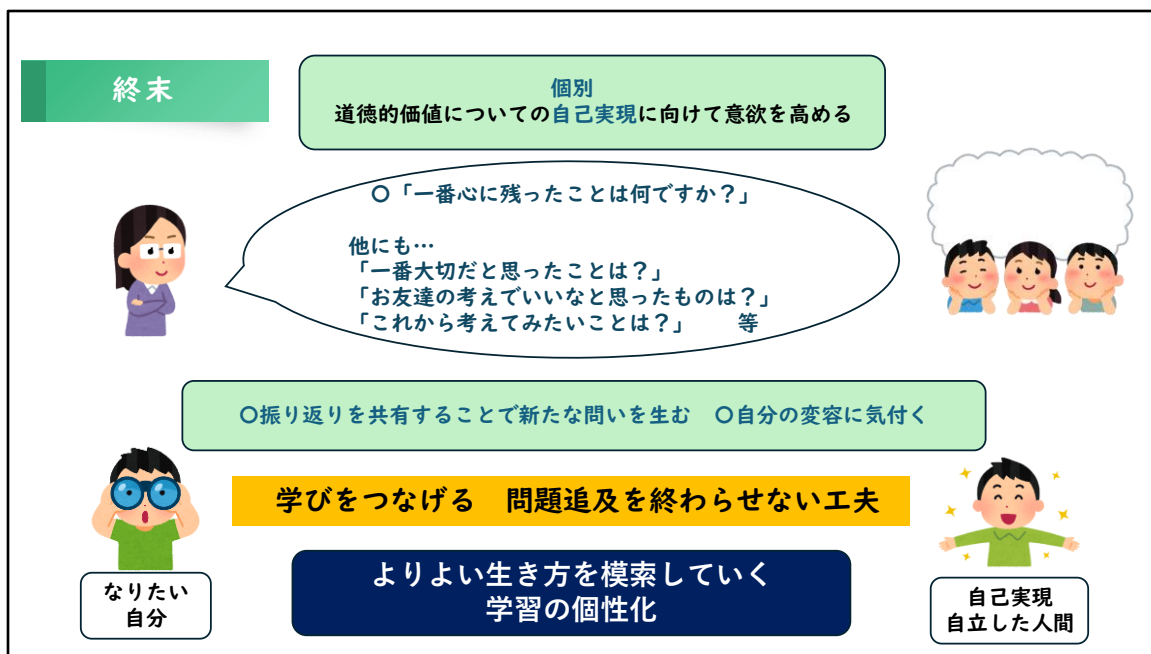
展開では、

- ・教材の内容を自分自身との関わりで考える（登場人物に自我関与すること）
- ・協働—意見や考えを共有し話し合う（多面的・多角的に考える）こと
- ・話し合い、考えたことを踏まえて、自分の生活を振り返り、自己（の生き方）について考えを深める（納得解を得る）ことが大切となる。

指導方法の工夫として、考えをもつ、整理する、共有する際に児童生徒が自ら学習方法を選択できる（指導の個別化）ことは、自己を見つめる時間や機会の確保と協働的な学習の充実に繋がる。



協働的な学習（多面的・多角的に考える）の場面においては、話し合う材料（ノートやICT等）があるのか、児童生徒が話し合いたいと思っているのか、何を話し合うのか、話し合いの進め方がわかっているのか、多様な考えを認め合う関係があるか等について確認し、「考え議論する道徳」の実現を図っていく。



終末では、教材（道徳的価値）と日常生活を結び付け、道徳的価値の実現に向けて意欲を高める。

本時の学びで得た納得解を、次の学びにつなげることができるような工夫を考え、児童生徒の自己実現（学習の個性化）を図っていくことが大切となる。

## 評価

### 【ねらい】

親切にすることで、相手や自分の気持ちがどの様に変化するか考え、相手のことを考えて行動しようとする道徳的判断力を養う。

### 【評価】

親切にすることについて、教材や自分の体験を思い返ししながら、あたたかい心で接することの大切さについて考えている。(ワークシートの記述 発言)



### 道徳科の評価に関して…

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。  
(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編)

### 学習状況で特に重視

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。  
道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか。

例えば…

- 一つの見方ではなく、様々な側面から考えている
- 自分のこれまでを振り返りながら、どのようなことなのか考えている
- 自分のこれからの生活や生き方に生かそうとしている。

といった点を中心に見取る

### 評価方法 観察

ノートやワークシート  
ICT  
ポートフォリオ 等

評価に当たっては、学習の状況や道徳性に係る成長の様子、多面的で多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を中心に見取る。